

# 劔

志水哲也=写真・文  
SHIMIZU Tetsuya

雪煙たなびくチンネ（三ノ窓から）  
山で30cm前後の降雪があった日、ホワイトアウトのなか、北方稜線の真ん中、三ノ窓に一人で入った。夕方、前足は雪がなく晴れ間が現われ、岩と雪、雲と光線交錯し、紺碧の空に雪煙がたなびく。2013年4月22日18時00分  
Canon EOS 6D EF24-105mmL



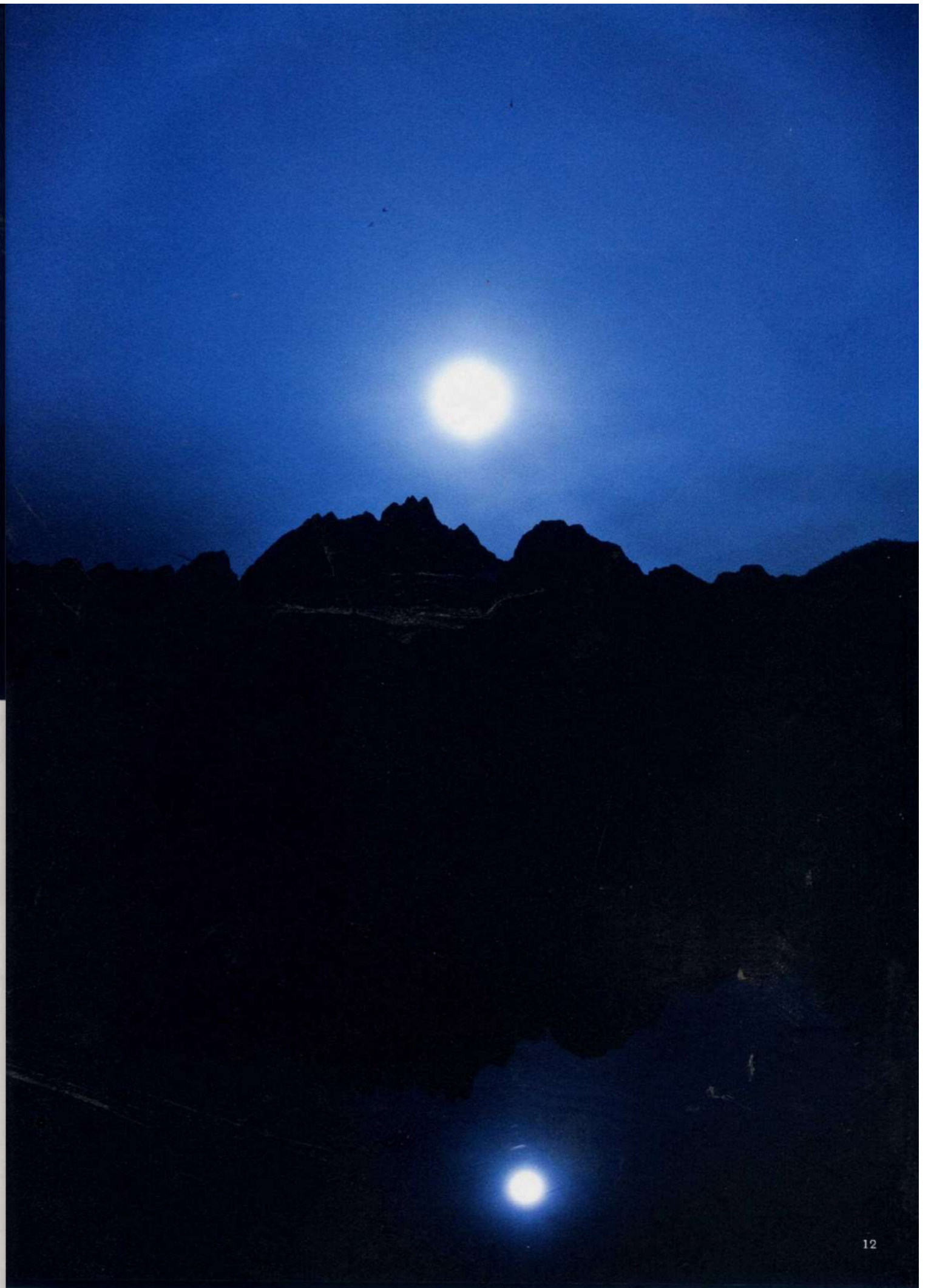
小窓尾根から出現した満月／上  
こんな写真を撮ってみたいかった。富山平野からの超望遠撮影  
2013年9月19日17時51分  
Canon EOS Kiss X6i EF800mmL

月暈と逆さ鷲（仙人池）／右  
池の前に立つと月に暈（かさ）がかかっているのではないか！ 深夜で小屋の宿泊客は誰も気がついていないようだった。二度と出会うことができないであろう光景をしばし独り占めした  
2011年10月10日2時7分  
Canon EOS Kiss X4 Tokina10-17mm

降  
雪直後で冬のように白い八ツ峰のII峰に上がった。2014年4月のことだった左右とも500m切れ落ち、馬乗りになるのがやつの八ツ峰の細い稜上の雪をスコップで削り、横になるスペースを確保。夜は放射冷却で寒かった。十分な装備を持って登るのは難しかったから、撮影機材は中判デジタル一眼レフカメラにズーム1本で、三脚も持たない。カメラケースは重いので梱包用の緩衝材でカメラを包み、ストラップは荷造り用の軽い紐で代用。食料、燃料、寝袋なども最低限にしたので、まともに眠ることもできない。

ただ僕が眠れなかったのには、別の理由があった。風がまったくなく、静かすぎるほどの夜だった。満天の星はあまりにも美しく、夜明けにどんな風景が現われるか想像すると、どうしようもないくらい目がさえてしまったのだ。

夜明けは鮮烈だった。魚の背びれのような細い雪稜が、鋸岳へ屈曲しながら延々と続く。それらの色が濃い青から淡い青に、紫に、オレンジやピンクに少しずつ変化していく。日なたと日陰がプラズマ模様を成しながら……。無風の静まりかえった空間に、乾いたシャッター音がこだました。素朴な疑問がわく。「僕が今いるこの場所はいったいどこなのだろうか」と。これほど神秘的な光景に出会ったことがあっただろうか。あの時、あの場所で、生きてきたよかったですと純粋に思えた。それだけでもよかった。剣が僕に、一つのこと、真剣になることの大切さ、すばらしさを再確認させてくれた。



#### 志水哲也写真集「劔」

9月20日発売予定  
上製・260×310mm・96ページ  
3700円+税・山と溪谷社刊  
◎志水哲也写真事務所  
☎0765-65-2911  
www3.nsknet.or.jp/~guriguri



#### 志水哲也写真展「劔」

2014年11月26日(水)～12月8日(月)  
リコーイメージングスクエア新宿(旧ペンタックスフォーラム)ギャラリーI+ギャラリーII  
☎03-3348-2941  
(以降、全国を巡回の予定)

#### しみず・てつや

1965年、横浜市生まれ。高校時代から登山を始め、国内外での単独登攀、黒部川全支流探査など登山家として知られる。97年に富山県宇奈月町(現黒部市)に移り住み、写真家としての活動を本格化。2002年から10年間で、黒部、日本の幻の滝、屋久島、白神山地などを題材に10冊の写真集、写真エッセイ集を山と溪谷社、平凡社、みすず書房などから上梓。11年頃から黒部の風景、動植物などを含めたその環境を写真と動画で記録し、次世代に残していく事に着手。

#### 紅葉の池ノ平の池

10月中旬、紅葉で有名な仙人池と池ノ平を撮影。池に劔岳と紅葉が逆さに映る。碧空に流れる雲まで映った  
2012年10月14日6時53分  
Canon EOS 5D MarkIII SIGMA12-24mm

